

## 鳥獣による被害

農作物での鳥獣被害にあつたことはないだろうか。丹精を込めてつくった作物を鳥獣によって食べられてしまうことはとても残念である。さらに、鳥獣害を受けることによって営農意欲の衰退を起こしてしまうことも考えられ、よって耕作放棄地が増え、被害額以上に深刻な影響ももたらしってしまう。

現在、収穫が出来る農作物がある中でエサを探しているという目撃情報があるため、警戒していかなければならない状況になっている。また、行政からの対応以外にも自分たちで対策をしていく事が必要になってくる。

### ・食い止められない被害状況

近年相馬地区でも鳥獣による農作物などの被害が報告されており、頭を悩ませている人も多いだろう。青森県の鳥獣による被害額はH29年度では7,800万円とH28年度に比べると、横ばいの状況となっている。品目別被害状況を見ても果樹の被害が



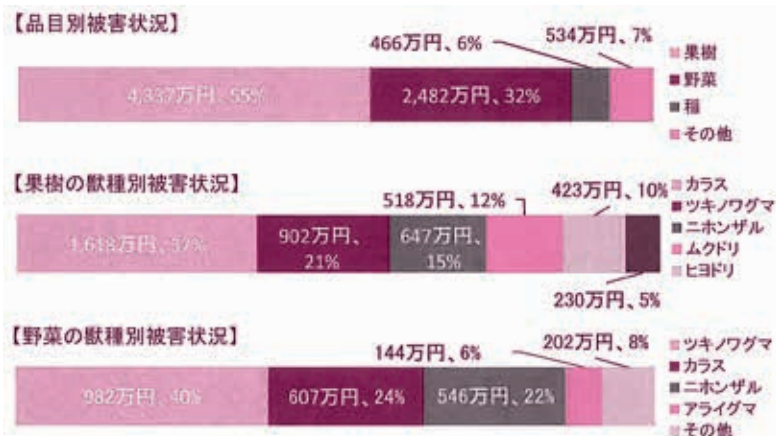
# 守ろう農作物

～鳥獣被害を減らすために～

4,337万と作物の中では最も多く半分以上の割合を占めている。また、野生鳥獣の中で一番多い被害を出しているのはカラスで、次いでツキノワグマとなっている。

これらの鳥獣による被害が深刻化してきている背景には、暖冬や少雪傾向であることから鳥獣の生息地域が拡大してきている事により、餌を探す行動範囲も同時に拡大していると考える。たとえ山に餌があつたとしても一度栽培した農作物を食べてしまうと、その美味しさを求めて再び農作物を探しにくる。さらに、狩猟者の高齢化、狩猟者の減少も問題になってきている。耕作放棄地も増加していることで鳥獣の住処となりやすく、被害の拡大に繋がっていると考えられる。また、様々な防護柵や電気柵等を設置しているが、管理不足により簡単に突破されてしまうケースがある。

また、一つ大きな要因としては人間がごみを捨てたりすること、鳥獣たちの餌場を作っているという状況もある。生ごみの処理や、道端へのポイ捨てなどにより



ハクビシンの被害にあつたりんごの様子

※青森県農林水産部安全推進課H29年度データ



# この足型を目撃したら要注意



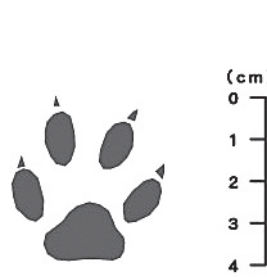
## ・クマ



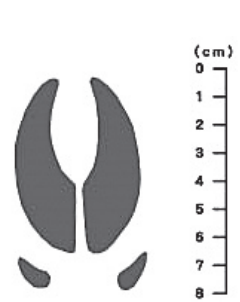
## ・サル



## ・タヌキ



## ・イノシシ



### クマの生態

- ・植物に偏った雑食動物
- ・12月～4月頃まで冬眠
- ・森林はクマにとって貴重な場所
- ・8月頃まで山菜を食べ、秋になると木の実などを食べる

### サルの生態

- ・植物に偏った雑食動物であり、ごぼう、唐辛子等のアクの強い食べ物を嫌う
- ・恐ろしい体験は忘れない
- ・果樹、イモ類、水稻、小豆を好む

### タヌキの生態

- ・主に森林で生息し夜行性
- ・雑食性であり糖分の多い野菜や果実を好む
- ・臆病な性格で、木登り能力もある

### イノシシの生態

- ・非常に神経質で警戒心が強い
- ・雑食性で植物性のものを中心にサツマイモ、豆類を好む。
- ・昼行性で鼻先で70キロを持ち上げるほどの力がある

鳥獣の生態を強くしていることがある。このように鳥獣害の被害を減少出来ないのは様々な要因があるようだ。

### 新技術の進出

これまでは地域集団のハンタークラブや、狩猟団体によるエアガンでの対策、モンキードックによる追払いなどが効果を上げていたが、それらの関係者の減少、高齢化が問題視されている。

しかし、今ではAーやTー、ICTなどが様々な分野で活躍している中、鳥獣害対策にも活用されている。例えば、IoTを活用し、獣種や頭数を判別させるセンサーに読み込ませ、監視をしなくても自動で檻に捕獲することが出来、効果的に駆除することが可能になる。これらのような新技術を活用するようになることで人の手では捕らえられない鳥獣の捕獲が可能になるなど可能性は計り知れない。同時に課題になっている狩猟者の減少、高齢化、鳥獣による人的被害も改善されていくのではないかと思う。

### 自分たちでできる事を

個人で取り組めることは数少ないことから、地域ぐるみでの活動によって対策していく事が必要になってくる。対策としてまず田畑の状況を把握する事。何の動物が何の餌を求めて、なぜこの場所なのかという事などを整理する。例えば園地まで鳥獣が隠れやすい茂みがあり、姿を隠すことが出来るようなところでは、茂みを排除することで、鳥獣が人間慣れすることを防ぎ、園地への侵入を未然に防ぐことが出来る。また、自分で柵を作製するというのも一つの対策ではあるが、そのためには作製した柵の管理が必要である。管理できなくなると鳥獣により簡単に突破されてしまう事から管理と補強が必要になる。柵を設けることにより鳥獣は簡単に餌を食べることが出来ないと感じ次第に出没頻度が低くなっていくだろう。

これから活発になると思われる鳥獣の動きにしっかりと警戒しながら備えてほしい。